

# 郷土資料館だより

Vol.28, No.2

2004.12.25

## 義経と頼朝の時代めぐり

平成17年は大河ドラマで源義経が活躍します。鎌倉幕府を開いたその兄源頼朝は、幼い頃平治の乱に敗れ姪が小島(葦山町)に流罪とされましたが、源氏再興のため三嶋大社へ百日の祈願など、三島、伊豆地域で青春期を過ごし、史跡や伝承を多く残しています。散策しながら、歴史とドラマを身近に楽しんでみてはいかがでしょうか。



頼朝橋 清水町見島



亀鶴観音堂(潮音寺) 五津市大岡本瀬川



黄瀬川の対面 [藤原小学国史編纂] 1173年(建久)



北条義時の墓(右) 北条寺 伊豆長岡町南江開 鎌倉幕府の地にて執権北条義時の墓が建立。



対面石 1180年(治承4)10月21日ここで源頼朝 義経兄弟が再会を果たしたと伝えられる



瀬下唯一の義経ゆかりの地

北条寺 伊豆長岡町南江開 鎌倉幕府の地にて執権北条義時の墓が建立。



願成就院 葦山町寺家 鎌倉幕府の地にて執権北条義時の墓が建立。



三嶋大社に伝わる史跡・文化財 禰生の松と安達藤九郎盛長賢護の跡 三嶋大社



妻塚 東本町 頼朝が兄一人大銀景綱は、身代わりになった自分の妻を斬ってしまいここに葬り。



三嶋大社に伝わる史跡・文化財



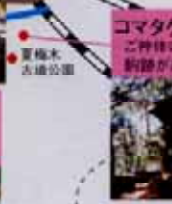
北条政子産湯の井戸 葦山町寺家



三嶋大社に伝わる史跡・文化財



政子の手箱(復元) 三嶋大社宝物館



コマトケサン 谷田夏梅木 二神林ののど大石に頼朝の駒跡があるという。



頼朝手洗水鉢 梅名 右内神社 頼朝が大社参詣の際に立ち寄り、髪77で地面をかきと水が流れたといふ。



三嶋大社に伝わる史跡・文化財



蛇が小島 葦山町御白町 頼朝流刑の地。



香山寺 葦山町山木 山木義隆の墓がある。



三嶋大社に伝わる史跡・文化財

## 企画展 暮らしの中の食文化

## 現在開催中

平成17年2月27日(日)まで

今回の展示テーマのひとつとして、食文化の伝統儀式「包丁式」を取り上げています。この儀式に使われる道具は、包丁、まな板など私たちの台所にある道具の原型ともいえるものです。これらの道具にはたいへん興味深い歴史があります。

包丁(庖丁)は、実は人の名前です。中国の古典『莊子』によると丁という庖(調理場の意味)の名人の名が紹介されています。その後日本でも料理をする人を「包丁」というようになりました。そして「包丁」が使う刃物のことを包丁刀といい、略されて刃物の方だけを包丁と言うようになりました。

まな(ま)な板は、ま(真)は重要な、な(肴)は副食つまり魚鳥獣肉をさし、それをさばく板と言う意味です。野菜類は別に切盤という台を使っていたが、室町時代ころに食材全般を切るまな板となったようです。まな板も脚付きの板や、平面ではなく蒲鉾型の丸みがあるものもありました。

まな箸は現在ほとんど見ることはありません。もとは肉類の真肴を扱うときに食材に手を触れないように、まな箸を押さえに使っていました。江戸時代中頃に一般からは姿を消してしまいましたが、調理に使う盛りつけ箸、菜箸は現在でも使われています。

日本料理の大きな特徴は、刺身に代表されるように美しい切り口です。これらの伝統的な道具と料理の美は、包丁式の中に集約されて見ることができます。包丁式は毎年11月上旬沼津御用邸記念公園で一般に披露されます。



▲包丁式の包丁刀、まな箸、まな板



▲包丁式で形作られた「菊水の鱒」

## 企画展 「チョウとトンボ～のぞいてみよう！虫の世界～」報告

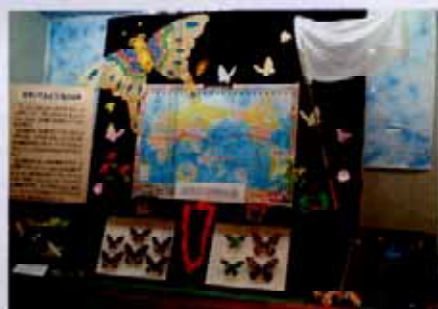
会期 平成16年7月19日(日)～11月7日(日)97日間  
来館者数 19,139人

平成16年度の第2回企画展として、故・塚田眞氏から三島市に寄贈された膨大な数のチョウコレクションを中心に、チョウとトンボに関する展示を行いました。

展示した資料は、世界のチョウや三島市近辺で見られるチョウの標本、静岡県周辺で見られるトンボの標本や桶ヶ谷沼の羽化殻標本及びトンボの生態写真、ヤゴやトンボの化石、「本草綱目」や「和漢三才図会」といった図譜などです。

会期は夏休みを挟んだこともあり、来館者の多くが子供たちでした。南米のモルフォチョウやフクロウチョウなどは日本で見る事が出来ないため、その美しさと珍しさに大変驚いていました。また、会期中には関連企画として昆虫教室を行い、多くの親子連れで賑わいました。

これを機会に、身近な自然に対して少しでも興味を持ってもらえれば嬉しい限りです。



▲昆虫の世界地図



▲桶ヶ谷沼のトンボ羽化殻標本

## ふるさと講座「頼朝と葦山めぐり」

平成16年10月21日(木)9:00~16:00

講師 迫田 信行 氏(郷土資料館運営協議会委員長)出席者 26人

コース 楽寿園出発→願成就院到着→光照寺→成福寺→政子産湯→  
守山遊歩道入り口→後北条館跡→守山頂上→真珠院ひる→信光  
寺→願成就院到着→願成就院宝物館→時代劇場→蛭が小島  
→江川邸出発→楽寿園到着、解散

講師から葦山の史跡などの説明を受け、頼朝の足跡をたどり充実した講座となりました。

葦山の守山自然公園遊歩道を皆の協力で登り、山頂見晴台から田方平野の眺望に、原始の古狩野湾の姿を想像し、古代・中世・近世・現代にいたる葦山の史跡を視野におさめました。

江川邸では、江川家が清和源氏の流れを汲み、頼朝の挙兵に加わり、その功により江川荘を賜り、館を構えたことなどの江川邸に関する説明を受けました。参加申込69名と希望者の多い講座でしたが、前日の台風による影響のために参加できない方がいたのは残念でした。

※参加者の感想

- 期待して参加した講座であったが、期待どおりで楽しかった。
- 歩くのが大変だったが、みんなと一緒に歩けたので自信がもてた。
- 講師の迫田先生の説明がわかりやすく参考になった。



▲「蛭ヶ島の夫婦」像(頼朝と政子)



▲政子の産湯の井戸にて



▲江川邸にて



▲源頼朝の木像(三島市松本・宗徳院)



▲木像金剛力士像(県指定文化財)  
(葦山町奈古谷・毘沙門堂仁王門)



▲八重姫御堂(葦山町寺家・真珠院)

### 頼朝と伊豆

伊豆地方には、源頼朝の伝説が今でも数多く語り継がれています。

頼朝と伊豆との関係は、1160年(永暦元)から始まります。平治の乱(1159)に敗れ、父義朝を失い、平家の捕われの身となった14才の頼朝は、蛭が小島(葦山町)に流罪となりました。

20年の時を経て治承4年(1180)8月17日、信仰を寄せてきた三嶋大社の秋の大祭の日に、源氏再興の旗上げ合戦として、伊豆の目代平兼隆の山木館に夜討をかけ勝利しました。頼朝は戦勝を喜び、三嶋大社・箱根権現・伊豆山権現など、多くの社寺に般若心経を奉納しました。

流人生活の20間年は、写経と読経念仏の日々であったといわれていますが、伊東祐親の娘八重姫との悲恋や、頼朝の妻となり後に尼将軍とも呼ばれた北条政子とのロマンスなど、まさに伊豆は頼朝の苦悶と青春の時代ともいえます。

旗上げ合戦に勝利した頼朝は、石橋山の戦いで敗れ安房(千葉県)に逃れ陣を立て直し、同年10月には富士川において平氏の追討軍を追い払うことに成功し、その帰路黄瀬川宿で弟義経と対面したと伝えられます。

以後頼朝は鎌倉幕府創設への道を進み、建久3年(1192)に征夷大將軍に任ぜられ、武家政権を確かなものに固めていきました。

## 鯨の缶詰あれこれ～日本の食の文化として

缶詰の原型がフランスで発明されて200年。現在スーパーマーケットには、多品種色とりどりの缶詰が並んでいます。その中に鯨の缶詰を見いだすことが、近年増えてきました。主に鯨缶は牛肉大和煮缶の側に配列されることが多いようです。

かつては、食生活になじみの深かった鯨は、1982年にIWC(国際捕鯨委員会)の採択した商業捕鯨モラトリアムにより、食卓から遠ざかってしまいました。これにともなって、鯨缶の生産も減り、デパートの贈答品扱いになるほど希少化しました。しかし、最近のミンク鯨資源の増加確認とそれともなう調査捕鯨の拡大



▲近年に登場した鯨缶

によって、鯨肉の供給量が増え、市場に出まわるようになったのです。

ここ数十年に生産された鯨缶に着目してみると、捕鯨をめぐる情勢や背景の一端をよみとることができます。例えば、鯨缶の値段についてみると、ニッスイ鯨缶（内容総量160g）の場合、1987年産は258円、2001年産は450円（任意のスーパーマーケットの価格）となっており、高級品化しています。内容的にも以前の鯨缶の方が鯨肉の固形部分が大きめなブロックになっていて、供給量の違いがうかがわれます。



▲生産年による表示の違い（左が新しい）

鯨缶のパッケージや表示にも最近変化が見られるようになりました。ニッスイ鯨焼肉内容総量85gの場合、1990年代前半には、「鯨類捕獲調査事業の副産物を原料に使用」といったものが、後に「鯨は日本の食文化」が加わり、2000年代になると「ひげ鯨赤肉味付け」という表示が「ミンク鯨赤肉味付け」に変化するとともに、ミンク鯨の生息数が多いというロゴもつけられ、ミンク鯨調査捕鯨の意義をアピールしています。さらに、近年、調査捕鯨海域と捕獲対象鯨が広められたことを背景にして、各社ともに南水洋産と北西太平洋産の記載が登場するようになりました。極洋の場合は、ミンク鯨・イワシ鯨・ニタリ鯨の3種類の原料区別の記載もしています。ちなみにこの分野では、ニッスイ、極洋と並ぶ老舗のマルハは、以前の大洋漁業時代には所有するプロ野球球団名も大洋ホエールズと鯨缶は中心的な存在でしたが、原料の安定確保などの課題から、現在は生産を停止しています。

鯨缶のデザインをみていくと、鯨肉と野菜の盛りつけを表現したものが一般的ですが、最近では、南水洋の鯨とペンギンや鯨のイラストなどを取り入れた製品が登場するようになりました。

また、沿岸捕鯨と関連のある太地、和田浦、石巻では、従来ツチ鯨が原料の主体でしたが、調査捕鯨海域の拡大もあってか、下関とともにミンク鯨を原料にした製品も生産しています。会社によっては、くじらカレー、鯨須の子大和煮など独自の鯨缶を生産してきたところもみられます。

（資料提供：富士市 内田昌宏氏）



▲鯨缶のパッケージデザイン

## 平成15年度 郷土資料館事業報告

## 1. 企画展示

テーマ	実施日	入館者	内容	備考
みしま町(三島町)	3月16日(日) ～5月25日(日)	8,397人	宿場町から伊豆の中心地に変貌を遂げた三島町の明治・大正・昭和の変遷や、祭り、商店、町の暮らしなどを古写真及び商人の資料のほか、昭和初期の三四呂人形を交えて紹介した。	図録作成
三島の文化財紹介	7月6日(日) ～11月9日(日)	15,508人	わかふじ国体の開催にあわせ、多くの来訪者に三島を紹介するため、郷土資料館所有の文化財を中心に公開した。前期は人面墨書土器など埋蔵文化財を紹介した。	前期 7/6～8/31 後期 9/14～11/9 パンフレット作成
3市博物館共同企画展 「竹の今昔物語」	11月16日(日) ～2月22日(日)	7,594人	かつて、日用品の材料であった竹は、工業製品に取って代わられ、現在は山が竹で覆れている。くらしに結びついた道具類と、今後サイクルの材料として注目されている竹を紹介した。	富士・沼津・三島博物館連絡協議会 パンフレット作成
企画展	計	31,499人		

## 2. 教育普及活動

講座名	日程	参加者数	内容	講師
縄文土器作り(2回)	(1) 7月25日(金) (2) 8月13日(木)	41人	縄文土器作りを通して古代の生活に対する理解を深める体験教室(小学校5～6年生)	館職員
ワークショップ	5月4日(日)	20人	竹細工のおもちゃ作り	瀬川 到
	5月5日(月)	9人	裂織り体験	杉山 洋子
	7月20日(日)	15人	勾玉づくり	館職員
	7月27日(日)	15人	裂織り体験	瀬川 到
	8月3日(日)	20人	竹細工のおもちゃ作り	杉山 洋子
	8月10日(日)	10人	折り紙	館職員
	8月17日(日)	5人	折り紙	館職員
	8月24日(日)	11人	裂織り体験	杉山 洋子
	9月23日(火)	46人	三島曆を刷ってみよう	河合 龍明
	11月23日(日)	16人	手作りおもちゃを作ってみよう	館職員
	12月23日(火)	10人	手作りおもちゃで遊ぼう	館職員
ふるさと講座	2月15日(日)	60人	裂織り体験 作りおもちゃで遊ぼう	杉山 洋子 館職員
	5月22日(木)	25人	みしま町を歩く	迫田 信行
	6月7日(土)	19人	錦田地区を歩く	鈴木 辰己
	10月23日(木)	30人	三島の文化財めぐり	齋藤 宏
	1月28日(木)	30人	竹の今昔物語	富士竹類植物園
	1月31日(土)	33人	三島曆を読む(第1回)	河合 龍明
	2月14日(土)	29人	三島曆を読む(第2回)	館職員
2月28日(土)	35人	三島曆を読む(第3回)	宮崎 真行	
講演会	11月30日(日)	19人	竹の現状とこれからの活用について	柏木 治次
企画展	計	498人		

購入資料 浮世絵：広重「行書 東海道 三嶋」及び「人物東海道 三嶋」

古 書：前北斎為一「道中圖譜」

修復資料 三四呂人形 6点

刊行物 「三島の成り立ち」1,000部、「三島初本陣史料集(16)」200部

収蔵品データベース構築 平成15年8月～平成16年3月の間、収蔵品の整理並びにデジタルデータベース作成

平成15年度 年間入館者 37,810人 開館日数307日

## 寄贈品のご紹介

平成16年6月から8月まで間、次の方々から資料のご寄贈をいただきました。

お礼申し上げます。

(敬称略)

### 伊出栄一

謄写版用鉄筆セット 1点

### 神戸履物店 三島市本町

鏡台 昭和初期 1点

### 宮川昇 三島市御園

起こし矢 4点

口矢 4点

墨壺 1点

伐採のこ 2点

墨刺し 1点

ヨキ 1点

背割り 1点

前挽き 1点



背割り

## 利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日)

12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分(11/1～3/31まで)

入場無料 (但し、楽寿園入園の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

## 古文書サークル紹介(1)

### 古文書読習会

郷土資料館で最も古くから活動している古文書解説研究グループです。30年にわたり古文書の勉強を続け、この間に三島宿本陣樋口家の文書整理及び解説奉仕を続けてきました。これは毎年郷土資料館から、「三島宿本陣家史料集」として発行され、三島宿や本陣の研究及び古文書の勉強の資料として貴重なものとなっています。

会員数 12人

活動日 毎月第一、第三木曜日 第二、第四土曜日  
(午後1時30分～4時)

### 生涯学習功労者表彰 平澤早苗さん



古文書読習会や三島宿研究会のリーダーとして長く活躍されている平澤早苗さんが平成16年度三島市生涯学習功労者として表彰されました。長年にわたる古文書解説研究、古文書解説奉仕及び後継者育成の尽力に対し表彰されたものです。

12月4日(土)市民文化会館で開催された「三島市生涯学習フェスティバル」にて授賞式がとり行われました。

### 平成16年度 博物館実習

本年度も次のように博物館実習を実施しました。

日程 7月27日～30日、8月3日～7日、25日(10日間)

実習参加 大学生 7人

桜美林大学、青山学院大学、京都橘女子大学、静岡大学、京都府立大学、帝京大学、群馬県立女子大学

### 郷土資料館だより Vol.28 No.2(第80号)

発行日 平成16年(2004)12月25日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo>

発行 三島市教育委員会